



第720号



岩手県森林組合連合会

発行／岩手県森林組合連合会
 住所／岩手県盛岡市中央通3丁目15番17号
 電話／019(654)4411
 FAX／019(654)4420
 URL／<https://iwatemoriren.org>



新年のごあいさつ

岩手県森林組合連合会

代表理事会長 中崎和久

新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、本会並びに森林組合系統の業務運営につきまして、岩手県をはじめ関係機関並びに林業関係団体の皆様方に特段のご指導、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、昨年秋口から「第8波」が猛威を振るい、本県においては一日の新規感染者数が千人を大きく超える日が続くなど、発生から約3年経過した今もなお終息する兆しが見えない状況にあります。

また、ロシアのウクライナ侵攻による世界的な混乱や為替の大きな変動で原油価格の高騰を招く等、世界の経済や社会生活に大きな影響をもたらしております。

このような中、森林・林業・木材産業を取巻く情勢は、一昨年後半から所謂「第3次ウッドショック」と言われる状況で、外材から国産材への代替需要が一気に増大し、国産材の需要と価格は高止まりしたまま推移していましたが、昨年下半年に入ってから国内外の需要が一気に落ち込み、製品・原木の

流通が停滞し価格も大きく下落したまま越年したところであります。世界情勢や外材の需給・流通の国際的動向に左右されることのない、木材需要の急激な変化に対応できる供給体制の構築に向けた取り組みが森林組合系統に求められております。

特に、組合員である森林所有者の経営意欲を喚起して行くためには、伐採跡地の再造林等持続的な森林経営に意欲を持てるような立木価格の確保により、所得の向上を図って行くことが重要であり、そのためにも森林組合系統が率先して木材の『安定需要』を生み出せるような体制の構築が必要と思われまます。国・県の施策では、大型公共施設の建築をはじめとする非住宅分野に木材を積極的に活用する流れが年々強まっており、本会としても『木とくらしの相談所』を中心として各種の木材需要開拓等に取り組んでまいります。

一方、近年、世界的気候変動の影響とみられる集中豪雨等により、全国各地で大規模な土砂流出等山地災害が頻発している中、地球温暖化防止や国土保全、水資源の涵養など、森林の持つ

公益的機能に対する国民の期待や要請は益々高まっております。

このような中、本年6月4日、天皇皇后両陛下をお迎えし「第73回全国植樹祭」が陸前高田市で開催されます。

これを契機として県民一人ひとりの緑化に対する意識が高まり、豊かな森林を次世代に引き継ぐ運動に繋がって行くことを願っております。

私も森林所有者の協同組織体である森林組合は、適切な森林の整備や維持・管理を通じて、災害に強い健全な森林づくりに向けた「緑の国土強靱化」をより一層推進して行く所存であります。

しかしながら、林業においては慢性的な労働力不足が続いており、特に、造林、下刈り及び除間伐等の森林整備関連従事者の確保・育成が喫緊の課題となつているほか、森林整備を進めて行く上で様々な課題が山積しております。地域の森林管理を担っている森林組合として、市町村との更なる連携強化により森林経営管理制度の着実な推進や、森林環境譲与税の有効活用による森林整備の推進、県産木材利用或いは人材育成を進めるなど、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて系統一丸となつて取り組んでまいります。

このような中、全国の森林組合では、昨年度策定した新たな系統運動「Forestビジョン2030」の運動方針に基づき、

活動を開始しました。新運動では「地域森林の適切な利用・保全と林業経営の更なる発展に向けて」をスローガンに、県・市町村と連携した地域森林管理体制の確立、循環型林業の確立と系統の木材販売力の強化、高度な人材の確保・育成、組合員に信頼される組織体制の確立、国民生活及びSDGsへの貢



年頭のごあいさつ

岩手県農林水産部長

藤代克彦

献の5項目を具体的目標として掲げ、この目標の達成に向け取組んでおります。

本会としては、森林組合との連携を更に強固なものとし、組合員への一層の利益還元、林産・販売事業の拡大等、今後とも積極的運動を展開して参ります所存であります。組合員のご理解と、

県をはじめ関係する皆様方におかれましては、引き続き森林組合系統へのご指導、ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年を迎え、皆様方より一層のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

令和5年の年頭に当たり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から、本県の森林・林業、木材産業の振興に御尽力・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、東日本大震災津波や気象災害からの復旧・復興に向けた取組、さらに、第73回全国植樹祭への協賛等に御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

東日本大震災津波から12年が経過します。被害を受けた海岸防災林は、再生工事が完了し、引き続き、適切な保育管理に取り組んでいきます。

また、放射性物質の影響により、国から出荷制限指示を受けている原木しいたけ(露地栽培)について、これまでに217名の方が、生産再開してお

り、引き続き、風評被害の払拭や消費拡大に向けた取組を進めるとともに、生産者、集出荷団体による販路拡大の取組を推進します。

本年6月には、「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」をテーマに、陸前高田市の高田松原津波復興祈念公園で、「第73回全国植樹祭」を開催します。

県では、開催機運の醸成に向け、昨年の7月には、八幡平市の岩手県民の森で、「二年前記念イベント」を開催するとともに、県内33市町村で全国植樹祭のシンボルである「木製地球儀」の巡回・展示を行っています。

引き続き、関係機関・団体の皆様のご支援・御協力をお願い申し上げます。

また、県産木材等の更なる利用促進に向け、知事を本部長とする「いわて県産木材等利用推進本部」を設置し、公共施設・公共工事での県産木材の率先利用や、住宅・民間商業施設等での利用促進等に取り組むとともに、県民に、広く県産木材への関心と理解を深めていただく「いわて木づかい運動」の取組を進めています。

さらに、地域林業の担い手確保に向け、「いわて林業アカデミー」における現場技術者の育成とともに、意欲と能力のある林業経営体の育成に向けた技術力・経営力の向上、労働災害の未然防止に向けた伐木技術研修会の開催等に取り組んでいるところでです。

本年6月には、「第51回全国林業後継者大会」の開催を予定しており、森林・林業の重要性や林業の魅力を全国に発信していくこととしています。

県では、令和5年度からの4年間を計画期間とする「いわて県民計画(2019〜2028)」第2期アクションプランの策定



第73回

全国植樹祭 いわて 2023

緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から

令和5年 6月4日(日) 開催

会場 高田松原津波復興祈念公園

ホームページ <https://syokujusai-iwate2023.jp/>

を進めています。

林業分野では、「グリーン成長」の実現に向け、本県の豊かな森林資源を最大限活用する林業・木材産業を目指し、次のような施策を掲げています。

1 市町村が森林経営管理制度を円滑に運用し、地域の森林整備に適切に取り組んでいくことができるよう支援を継続していくとともに、森林資源の適切な管理を促進するため、施業の集約化等による林業生産活動の効率化や経営力向上に向けた取組を支援します。

また、「いわて林業アカデミー」による森林・林業の知識や技術の体系的な習得を支援するほか、多様な担い手の確保、安全意識の向上や安全対策の強化に取り組みます。

2 森林が有する二酸化炭素の吸収源

としての機能等の持続的な発揮に向け、一貫作業や低密度植栽の普及による造林コストの低減など、再造林の促進とともに、森林施業の集約化と林道等の整備など、路網と高性能林業機械の組み合わせによる木材生産の低コスト化を推進します。

また、ドローン等を活用した業務の効率化や、森林クラウドシステムの運用、スマート技術を活用できる人材の育成などに取り組めます。

3 公共施設をはじめ、民間商業施設や住宅等への県産木材等の利用促進に向け、性能の確かな県産木材製品の安定供給体制の整備、木造建築に携わる技術者の育成、木材需要の変化に柔軟かつ機動的に対応する仕組み

づくりなどを進めます。

4 「いわての森林づくり県民税」を活用し、公益上重要で管理の行き届いていない森林の間伐や伐採跡地への植栽など適切な森林環境の保全に取り組んでいきます。

また、「森林環境譲与税」について、引き続き、市町村が森林環境譲与税を有効に活用しながら、地域の森林整備に適切に取り組んでいくことができるよう支援していきます。

5 松くい虫やナラ枯れの被害拡大防止に向け、市町村と連携した被害木の早期発見、駆除の徹底を図るとともに、樹種転換や更新伐等による伐採木の利用促進など病害虫被害を受けにくい健全な森林づくりを促進します。

また、県民生活の安全・安心を確保するため、保安林や治山施設を計画的に整備します。

本県の林業・木材産業は、川上から川下まで、すそ野の広い産業であり、多様な豊かな森林資源を背景に大きく発展する可能性を持つ、地域の活性化に欠くことのできない産業です。

持続可能な地域社会の実現と山村地域の振興に向け、今後とも、森林組合系統をはじめ、関係機関・団体の皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が林業・木材産業に携わる皆様にとりまして、更なる飛躍の年となりますことを心から御祈念申し上げます、年頭の御挨拶といたします。



年頭のご挨拶

農林中央金庫 仙台支店

支店長 徳 永 雄 亮

新年明けましておめでとうございます。森林組合の皆様におかれましては、新たな年の初めを迎え、健やかに過ごしのことと心よりお慶び申し上げます。また、私も農林中央金庫の業務につきまして、日頃から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の拡大が依然として続く一方、コロナ禍以前の経済活動再開を模索した動きが積極化する等、明るい兆しも見られた一年でありました。森林・林業分野におきましても、コロナ禍による物流の停滞やロシア・ウクライナ間の軍事

衝突を背景とする外国材の不足が、木材価格に大きな影響をもたらしました。木材価格の変動が激しく、見通しが立たないなかであっても、適切な在庫管理の徹底や販売先の確保により対応し、安定した組合経営に取り組まれた皆様は、心から敬意を表する次第です。国内経済におきましては、諸外国との金融政策の違い等から円安が加速し、国民生活には物価高騰等の影響が見られました。昨年末には、急激な利上げを続けていたアメリカが利上げペースを減速させた一方、国内では日銀が金

融緩和策を一部修正したことで長期金利が上昇する等、各国の金融政策については先行きが不確実な状況が続いており、今後も注視していく必要があります。また、東日本大震災から十年以上が経過し、被災地の復興が着実に進められてきた中で、本年六月には陸前高田市を会場に全国植樹祭の開催も予定されているところであります。これまで被災地のインフラ整備・建物等の再建にあたっては、長年にわたる森林組合系統の皆様のご尽力があったものと認

識しておりますが、復興の一つの節目とも位置付けられている本行事を通し、岩手の林業の魅力発信に向けた皆様のご活躍をご期待申し上げます。

森林・林業を取り巻く環境につきましては、二〇二一年四月に森林組合法が改正され、森林組合同間の多様な連携による経営基盤の強化・山元への一層の利益還元等を図る動きが強まっているほか、昨年四月の森林組合系統運動方針(Forestビジョン2030)の制定、

森林環境譲与税の徴税開始等、法制面における変革が徐々に進められているところですが、また、ここ数年は「持続可能な開発目標(SDGs)」への関心が全国的に高まっており、森林の持つ多面的な機能や林業に関わる活動が、これまで以上に注目を集める状況にあります。

このような状況下、森林組合系統の皆様におかれましては、引き続き地域

林業の担い手として、組合員への貢献はもとより、集約化等による効率的な森林整備や安定的な木材生産、再造林の促進、これらを通じた森林の公益的機能の維持増進と山村社会における雇用・活力創造の担い手として、幅広い面での期待が高まっております。組合員や地域社会、ひいては国民生活にとつてなくてはならない森林組合であり続けるべく、一層ご活躍いただきますことをご期待申し上げます。

私も農林中央金庫といたしましては、昨今の森林・林業における潮流を適切に捉え、森林組合系統の皆様に対して、金融機能の提供にとどまらない様々な形の貢献に引き続き注力してまいります。岩手県、岩手県森林組合連合会、農林中央金庫との三者連携のもと、県内森林組合の経営体質強化に継続的に取り組むとともに、①森林組合系統における「森林環境税・森林

環境譲与税」および「森林経営管理制度」への取組みの推進、②人材育成・コンプライアンス態勢整備等の組織力強化、③林業現場の安全性向上や荒廃林の再生を中心とした施業高度化支援、④地元産材の利用拡大に向けた木育・木製品寄贈等による国産材の利用販売促進等、様々な支援を展開してまいります。また、これら既存の施策に加え、低コスト再造林プロジェクトや下刈り機械の実証実験等、新たな取組みにも挑戦をしております。各種施策を通じ、林業の更なる発展のために、全力を尽くしてまいります。



全国森林組合連合会
代表理事会長 中崎 和久

年頭御挨拶

年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、弊会の業務運営につきまして特段のご高配を賜り、厚く御礼申

申し上げます。

さて、昨年も集中豪雨等により全国

各地で災害が発生しました。被災された方々に衷心よりお見舞いを申し上げます

環境譲与税」および「森林経営管理制度」への取組みの推進、②人材育成・コンプライアンス態勢整備等の組織力強化、③林業現場の安全性向上や荒廃林の再生を中心とした施業高度化支援、④地元産材の利用拡大に向けた木育・木製品寄贈等による国産材の利用販売促進等、様々な支援を展開してまいります。また、これら既存の施策に加え、低コスト再造林プロジェクトや下刈り機械の実証実験等、新たな取組みにも挑戦をしております。各種施策を通じ、林業の更なる発展のために、全力を尽くしてまいります。

とともに、森林組合系統が一丸となつて、復旧・減災の取組に尽力することをお改めて決意する次第です。また、新型コロナウイルス感染症については、感染対策から社会経済活動との両立への転換が進められているところですが、昨年末より新たな感染拡大が始まっており、ウクライナ情勢を始めとした世界情勢の混迷と合わせて、経済への影響が懸念されるところです。

◎令和5年度 林材業労働安全標語

「ゆとりある 基本プレーが ファインプレー」

◎令和5年度 林材業労働衛生標語

「オンとオフ メリハリつけて 健康管理」

岩手県森林組合連合会 12月上旬市況

一般素材県内各センター渡し丸太標準価格(㎡当たり)

樹種	長級 (m)	径級 (cm)	標準価格 (1㎡当たり)	今後の動向
スギ	4.00	10~16	10,000	→
	3.65	18~28	12,500	→
	3.65	30上	12,000	→
	3.65	40上	11,500	→
	3.00	16~26	12,500	→
	2.00	18上	9,500	→
アカマツ	4.00	18~22	11,500	→
	4.00	24~28	12,500	→
	4.00	30上	13,000	→
	4.00	40上	13,000	→
	3.00	18~28	11,000	→
	3.00	30上	11,500	→
	2.20	40上	12,000	→
	2.00	18上	11,500	→
カラマツ	4.00	14下	12,000	→
	4.00	16~28	22,000	→
	4.00	30上	22,000	→

その一方で、SDGsやカーボンニュートラル社会の理念の広がりを受け、森林の多面的機能の発揮への国民の期待が高まっており、森林組合系統に対しては、地域の森林管理の担い手として、森林資源の適正な管理や循環利用に向け中心的な役割を發揮することが求められています。

そのような中、森林組合系統では、

一昨年の秋に決議した「JForestsビジョン2030」に基づき、系統各組織において、10年後の夢・目指す姿を策定し、地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けた取組を本格展開しているところであります。関連して、弊会が事務局を務める「林

業技能向上センター」は昨年9月に任意団体から一般社団法人となり、林業に関する技能検定制度の構築に向けた取組を加速しております。技能検定制度の創設により、現場技能者の所得向上や作業環境の改善が図られ、ひいては業界全体の課題である労働力不足の解消につながるよう取組を進めて参ります。

また、昨年6月には森林・林業・木材関係6団体とともに、国産材の安定供給体制の構築に向けた「共同行動宣言」を行いました。この共同行動宣言では、「時代の要請に応える国産材の安定供給体制の構築に向けて」をテーマに、日本の森林が健全な姿で次世代に

受け継がれていくため、持続性の確保された国産材の原木及び製品の生産・流通利用と国産材シェアの拡大に向けて、生産者と需要者が一体となり実現を目指すこととした画期的なものであり、主旨の実現に向け協力体制の構築に注力して参ります。その他、昨年8月には韓国山林組合中央会と事業協力協定を締結し、林業政策や技術者育成に関する情報共有等、相互発展に向け協力を深めることとしました。

早速、韓国の山林組合視察団による日本の森林組合、森林組合連合会への視察が行われ、今後も様々な連携を進めて参ります。さらに、新たな取組として、カーボ

ンニュートラル社会への貢献を目指し、農林中央金庫とともに、森林組合系統における森林由来クレジットの円滑化に向けてサポート策の検討を進めていきます。

今後も、弊会では系統関係者及び関連団体とともに、森林資源の循環利用を通じた「グリーン成長」の実現、人材の確保・育成、林業労働安全、国産材利用促進等に向け、役員一同精進する所存ですので、今後とも倍旧のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとって幸多き一年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

伐採跡

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度も引き続き、「こだま」のご愛読の程よろしく願っています。

また、四面の広告には、令和5年度の林業林材業労働安全・林業労働衛生標語を掲載しております。林業労働災害の未然防止に向けた一層の取組をお願いいたします。

(藤澤)

全体的に荷動き悪く

県内センターの取扱量は累計で前年度比121%。単月では約800m³の販売増。
 県内合板工場の生産は減っている模様。受け入れ制限が続いている。
 スギは中目材の売れ行きは好調。細材、大径材は保合。役物用は需要あり。
 カラマツは、中目材の引き合いが弱い状況が続いている。小径木は、6~12cmが不足している状況、価格は保合。13~14cmは保合。
 ヒノキは、需要があるものの入荷は少ない状況。良材は高値。
 盛岡センターでは、広葉樹の入荷が多い。特にナラの引き合い強く、価格が上昇。広葉樹全体では、例年と同等の落札価格ではあるが、引き合いが増した。

＜上段…特選材 下段…一般材＞ (m³当たり)

木材流通センター			盛岡	一関	遠野	高田	宮古	二戸	久慈	浄安	釜石	東磐
樹種	長級(m)	径級(cm)	11月17日	11月7日	11月30日	11月18日	11月11日	11月4日	11月16日	11月29日	開催せず	11月25日
スギ	2.00	18cm上	-	-	10,000	-	-	9,550	9,060	8,450	-	-
	3.00	16~26	11,880	11,800	-	-	14,500	11,600	-	-	-	14,980
	3.65	18~28	13,310	-	-	14,600	-	-	-	-	-	12,700
	3.65 4.00	30cm上	103,000 14,780	74,500 11,000	18,300 12,000	28,889 15,480	18,500 13,000	13,800 11,810	45,800 11,700	15,000 11,000-	-	12,600
	4.00	10~16	10,000	-	9,000	10,830	11,500	10,000	10,020	-	-	10,530
落札数量	4,523 m ³		1,289	347	791	220	225	142	416	336	0	758
アカマツ	2.20	36cm上	52,800 15,000	22,500 11,800	-	-	18,900 12,800	12,900	12,300	-	-	-
	3.00	14~28	10,830	-	-	-	-	-	10,000	-	-	12,600
	4.00	18~28	12,000	-	-	13,400	-	11,600	11,000	-	-	12,600
	4.00	30cm上	49,800 14,080	28,900 13,380	-	13,400	22,500 11,900	13,600	38,900 12,000	-	-	16,600 11,160
落札数量	1090 m ³		522	35	3	5	10	124	282	76	0	35
カラマツ	4.00	7~13	13,000	12,500	12,000	-	-	10,110	10,500	-	-	11,260
	4.00	14~28	21,000	22,000	25,000	-	24,001	23,000	19,510	-	-	22,500
落札数量	2,013 m ³		461	32	657	0	69	376	321	0	0	95
出荷数量	11,618 m ³		4,779	891	1,139	279	425	784	1,480	566	-	1,275
落札数量	10,157 m ³		4,308	525	1,113	233	308	748	1,450	533	-	940
平均落札率	87%		90%	59%	98%	84%	72%	95%	98%	94%	-	74%
延べ参加者	316名		107	42	19	17	10	28	40	29	0	24

※ 総出荷・総落札数量については、上記の樹種以外も含まれます。

今後の動向	スギ					アカマツ				カラマツ	
	2.00	3.00	3.65	3.65	4.00	2.20	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00
	18上	14~18	18~28	30上	10~16	36上	14~28	18~28	30上	7~13	14~28
強気配											
保合い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
弱気配											

造作用材のポイント

1. 元根曲りを付けないこと
2. キズ、欠点などは除くこと
3. 延寸は十分付けること